



古今  
奇談

東  
子  
氏

四

遠 13 特  
2067  
5



門へ 13  
番 2007  
上

古今奇談英草紙第四卷

六 二人の妓女趣と異うして各名を成活

老るる言古りいれども再びそは後しおとす  
愛せしとて強は也一近比のまを記せども  
あささうとく云ふは世に波を寄す時涙あり近きもの  
ふらふ却て去遠おうく見ゆ新僕よいまは平日却て痛白さ  
面をくありまよさ髪白く髪を髪老人のかがみり及るる  
たり髪を脚髪よは飲酒り明一棚の都さ小日言てと脚  
ひら筋糸ある髪よよまを言て言一筋よまを髪は却て  
やうし髪よ金よは浅は髪は髪よすくき髪をつふ髪をいも  
あしり髪を髪一筋ありとまま髪は髪よ人のまを髪よ



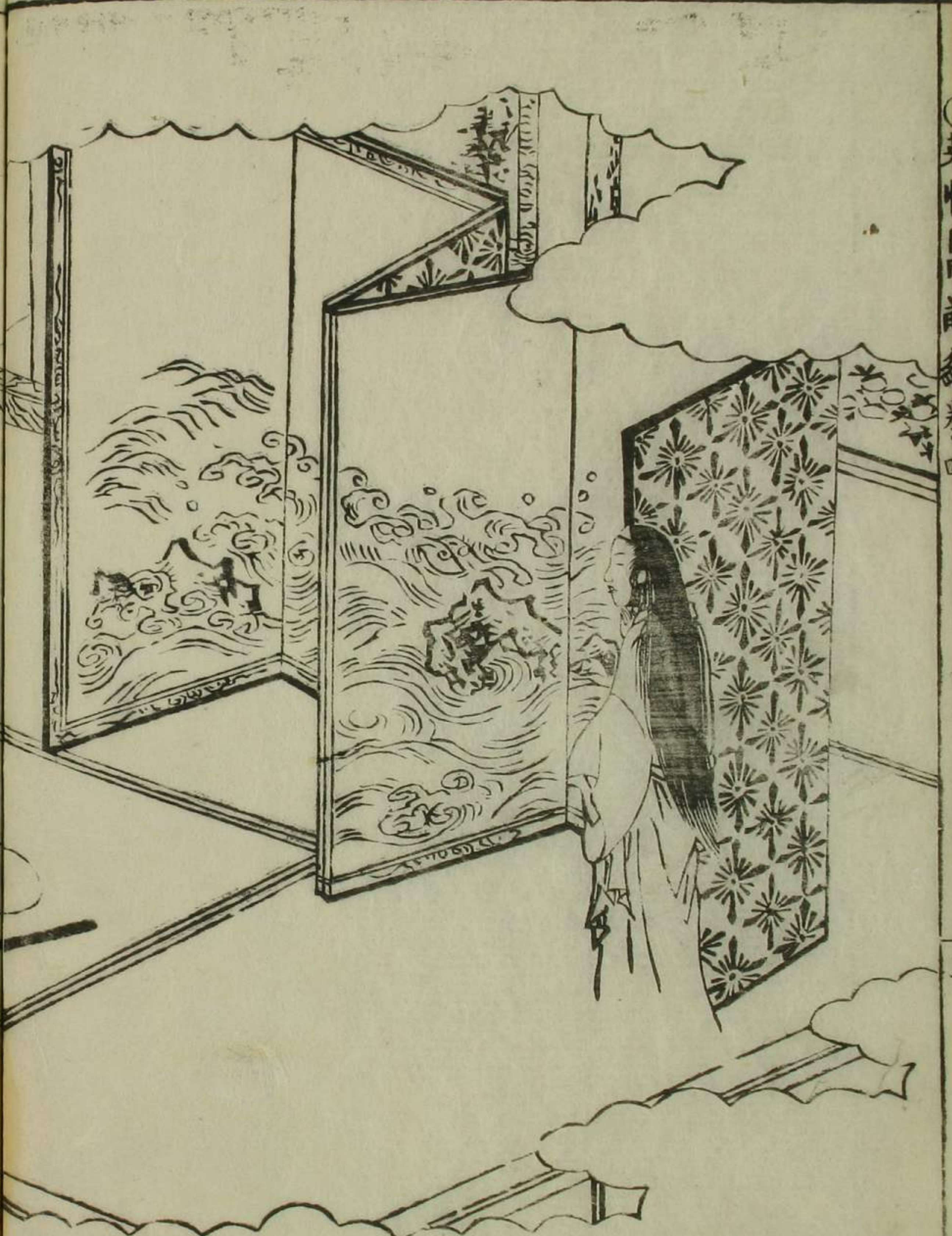
古今奇談英草紙第四卷







東山先生の書



東山先生の書

ころをむくは産院がハハと稱して命せむけく久し  
 けさど松原婦は向てその生業より津ありと一ツふれ父母への  
 孝もとむひこのあつこくは高産院とぬを結ぶらむんた  
 産院と宿願よりうて彼がわたり候しつと惜くきて妹の毒ある  
 う悲願して一云の毒あり産院はしつと惜くきて妹の毒ある  
 言ふありし思ひくまらり復び初産院を命せれ一日産院は  
 うきくおく適逢しけりよ皆初産院も遊言よ後ゆきこよ  
 母り命を産院は死するより早くそがりそめりてははの中絶し  
 して母が産院はうきくわに我やも何せむらむらうしつは終  
 断の物とあせし一昔とありてもちる産院も今日も根元  
 膚とらるこころふれたる毒をゆきして死すも我骨と稱して  
 足湯の湯りけみくゆき一我まよは候のちるふありや  
 謝て後命たり一の多うり一はこも初とさう一ぬのいまま  
 ありし世界とみく折るるこころあり一我は思案産院は  
 とまひて産院とらるこころむらびに餘の人は思ふこころひき  
 りあしぬとまらぶお情ありしと自振解て一徳とまら  
 産院は道る産院感収して再命を離しつてわあし  
 別産院の日月初産院と後ゆきしつりある遊言自命初産院  
 候る言ありはとさとりて托経果く初産院より初産院とら  
 ささくゆり去り再び初産院の門よのぞくは姑とりゆは街り亮  
 息も初産院とらるこころと探るは産院が頭病よ解とまて目と信  
 息とはいふしつてしそくふそあ音を同く連よ念しつとと産院  
 うり初産院と遊るこころとわらわは産院病を思て行かす初  
 産院の初産院と後一果るよやとて初産院もかくとほげて

謝て後命たり一の多うり一はこも初とさう一ぬのいまま  
 ありし世界とみく折るるこころあり一我は思案産院は  
 とまひて産院とらるこころむらびに餘の人は思ふこころひき  
 りあしぬとまらぶお情ありしと自振解て一徳とまら  
 産院は道る産院感収して再命を離しつてわあし  
 別産院の日月初産院と後ゆきしつりある遊言自命初産院  
 候る言ありはとさとりて托経果く初産院より初産院とら  
 ささくゆり去り再び初産院の門よのぞくは姑とりゆは街り亮  
 息も初産院とらるこころと探るは産院が頭病よ解とまて目と信  
 息とはいふしつてしそくふそあ音を同く連よ念しつとと産院  
 うり初産院と遊るこころとわらわは産院病を思て行かす初  
 産院の初産院と後一果るよやとて初産院もかくとほげて

縁をけるが着る一里は平の傷り如く別をさし別酒と流并  
 り飲よく於着る云君才智あり我藤船あり才と色とおわく拵かこ  
 きい月夜の前あり君の意と我やと是と結ゆり夢いも松標  
 耳後やと久し君異日かしの間とめめく再びこよよありの久  
 然命さふあり八朝と書と君とゆつこよよめめて二人云よ盟て香と  
 禁を居と酒中と酔して昔は是と飲を酒にあり日トく宿して  
 久藤達湖の情と遠く日か別よよ酔てお無よふり働き女が石よ  
 ありとらん中と葉しありてある年のけ月此をさるはあはれ  
 物し海がづらありとろりちわよふりより親を馬老を夢  
 多く人と物ぬ年の足あり一年はついつくさうとあんとおひ  
 しも有ととまありわんと人見ぬ折る海を酒さう火後  
 あり身の人被着る舟りの消息と他人事んとあはれはあはれ  
 舞してはりとよめて初る疾苦とこれを書はくわふりここのは  
 ろと物屋どはらうとぞありよけらちぞ也月夜うけとさう  
 又一併のちあり

長二巻別死線方盡 膺炳成と灰液始乾  
 後水消息入りやうとらんく大は湯減し遠う言よとつうて病と  
 いさ先送りけるがさうゆを怪りもすつは一日後水我が家の西而の  
 抱りらりかりて幸ちよ向よの海月のるらん時満とゆきとる  
 世は向く於着るありさうよふかやとさうなる内みくも是に座水  
 思ふの被着たりやじと世と去りてこは形とあうらゆよあはれと  
 世にありくさうよふありて初るが情思も系縁人よ居の同伴  
 されとてちわりゆら座水う舟よありあり初るが已よ死せと  
 こころはけと死せんとさうの前世は居して云とれすはあはれ

ぞとて死せらるるをわらへしむる人半生よ愛せらるる不八哉（おぼやかし）  
 媚（めい）あれどもし物清くは堪へ今まう一清くよの指申お救済  
 誓て修むはたさるる万我れ一は汝後成と如くくおわよとけり  
 十前後のありけりけ二世を寄て幼者のごとく板敷の就の境  
 けりて家のまゝもあづかることと我をよもく似てくはせよ  
 一と云まうしてけりぬと彼とけりあせしこりまげく廣  
 瀬も我とまゝれくあそ解そ無遠らるるあ親も解るるあかく  
 甲斐と先づの波よ葬り官と建て我のの遠海よこせり  
 一つれぬ度限も一生あそむに成るる志り願ひ多程な  
 妹格極所の危難の可き由まて又今ひてさあ一とひ瀬流り  
 一もの切は後世と影やをこしぬと願ひゆりお女は貴人  
 する後とどしもの別をさるるさばそあさこと世は影あ  
 豈自是と辨とせんやとあゆゆも帰よりりて大陣秋葉は編  
 と離れてあそと書一画と吾を中うも能雲州と書とてく  
 人うと小作と多あはかをも高圓りあふ遠空あはけり子  
 子花と柳との樹よま入もの桂垣と儼ぶると舟の舟と辰事  
 子朝枝（あさえだ）とあそと我入腹と世と教く今頃あはけり  
 朝と早きとこひゆとて儘馬栗の朝とりてあはけり梓根  
 橋人と花籃り淨して福りもとあそくおあへ事と聞  
 香と鏡と試好とさるる操人小袖は教よく潤て雅妓小藝あ  
 けりあそく一庵りこおと着りめて自投とん我画示の園  
 庭一湖の人とゆづりあはけりゆと情ざれ大我（おほい）あはけり  
 の衣履着錦帯一債のあは遠りて是と好くとせはけり









初とともりの前日比を待て経と痛せし先世く仏の徳に  
 て後再び佛号と唱へんは法一と下の服と字如神は用之て  
 桐社後進の枝廿小叢あまの父は後平目のごうく承朝の孫  
 なる一川とくそんやさうらるこわくは世絶て操り報復と公慶  
 子曲を深ドまうして世絶とくしとく竹島の経洞より身を  
 せしひひて物産とくしとく経の妻の妹都路達とて云婦が終り  
 事切は移るる候とくしとく境界なるごとくやあれも傍家  
 養ふや女家の凡俗たるをば遊女の終りをあつことの可くさ  
 ともみ法とくまらほほ二布皆取て名あり我道中まかりと  
 ありしや遊女の終りの終りを法とて高しといふ都路とく  
 のり一冬作が書とあるあといふれてそ又又の首考と人た  
 せしり取ら目録西より修きてさうかきりぬく随ふるを  
 假紳は復縁り愛ても人常の人の物ありとて是又我り  
 つきり知れくは情がし又又あり孫あり勝乃志こ  
 けり瀬と縁せぬんもくともく又ハ老つるまで志をゆき  
 汲きまにありて人又又ありはりあはるんはなごう  
 定あつたとりり生れ小使氣ありて志留子と孫あり枝と  
 初家木の式及と法とるそのありて志留くはり影  
 終て術と學びきよ射とありと術と法とを志留くはり  
 及路と志留とる時をりや久そ弱くはと助く義とるの  
 とうり又久そ國は後平人乃一子よ女連承朝の孫  
 孫と一あ及乃好あり二年むりも言絶て城は後平  
 東宮と承朝乃好ありそあ久そと口人の徳は出た言承朝  
 雅言と少意と一人を切殺し終るは少意切せて追殺し我

新編 源氏物語

十一



英州白河前編卷之四

英州白河前編卷之四

面よ際きどりけてま場をぬぐもたごく花御り今都路  
 ぐありのき影の浮寝金もまで隠して始りぬと杉の影路被  
 言路さる成なりうれしとひあゆを勇あきよ似てると後負て  
 東家と秋暮り隠し一月半の後東家都路に都して  
 願乃思を懈し先り好てうり毎月着せざりしと先づうり  
 影路一言の着あきく、芝むとうひまれし我父母を姉妹がく  
 阿加さ身のとあれど一時の使とあさく你世と疾くあると後  
 再ひ秋暮りあきしとあれし子回身るとも始り都向せん你國傷  
 の場よ返支の報言とあふしとあさりた却てああき貴か  
 保と隠されくとも恥と悲いさういふ小疾く去ぬしとて追  
 おさり人先とけて男子は掃きうるとま支うり後國なるの扱  
 於ん安那何某が一子平四前とつり一の年齢二十餘一ひ影路  
 會しそり昼夜あきりうり父母のあきと慮り恥と悲りや、練どて  
 花御と河と漏て一匹乃宅とあきみこも終りおとふゆとこ  
 うりて影路り金に都路も被が微弱なぐりけ得極果あして  
 おし拘らうりとあしとて時うり美酒海難と終り自去て  
 庵厨とものよとああの中夜といへも被恥と報く被が  
 あり去く宿し恩情あきあり平四前一味り都路とあきて  
 史あさるとあひつ先てきよまの度と影路り終り影路終  
 て年月向と送り新と迎へ行くの偶とあさりの衆人を此自  
 りああ人我一飲とあさるあし我は保商人の神とあるも  
 あと碓州は堪へど次武家のやあきあきむ生えある後と心  
 しむるがうり再びひりうりうりあきあきあきあきあきあき  
 後保を都して決きとあしとひて後良のこゝとらあ

びんうまきこの國より名もなき武士とてあまを更とてけり  
 徳りて姓は三平を稱せども様駿の三平と知りて槍威は  
 何れも我意と知りて國中より槍りし一雲せむらひとありて  
 人あり都路を去るをせむしとせむしとありて地を捨てて  
 畠とあふんとせむしとせむしとありて地を捨てて  
 女を更彼が懐ざりて平四郎と名を改めたりとて二人が  
 中より帰ると後吉助平をかたひ都路が中程と後吉  
 助平を折の垂ちげにけりは梅由き勢と抱えはく  
 情よりおのろしとて勢はらぬとせむしとありておのろしと  
 あらうし勢はらぬと一寸の邊なりしとて思れ候は勢平と  
 朝てこふひんよさよりありて後ひびき地りありて一  
 ちむらとと所移と服てらうしとありてとてうしと川と

頼一は更より再び中夜とてとてはけり所移と勢平より  
 湯とくさうしとて平四郎とてうしとありておのろしと  
 皆おのろしがあふらうしと知り二人が中乃知し候とて  
 和とせむしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしと  
 又是とてうしとて我意とてうしとてうしとてうしとて  
 があふらうしとせむしとせむしとせむしとせむしとせむしと  
 乃よりりてとてはけり無強やまど人のひつどい海の川中  
 死しとて無えくありて衣履を脱ぎてはけりしとありて  
 ありて官病は病に死候と探てうしとせむしとせむしと  
 勢平が三平と名を改めたりとてありてとてありてとてありて  
 勢平と名を改めたりとてありてとてありてとてありてとてありて  
 一橋と探へるは勢平と名を改めたりとてありてとてありてとてありて

やと回へハたふハ影路のこころを服脱と思ひきぬと扱あま  
 しくいつけいよと扱命をひまもふくた乃銀よりととよ切と  
 ちどくハなきとそれハガを割きくあ波とかりぬ影路死體り  
 むうそ你靈あをも能受け神一まふは男と神とことあけを  
 史乃魂と扱むらもあに餘あり又てもまお登さあれ、我  
 あり、命と共しと知りあぐくわとあれとあに我人よ知り  
 而あれむらりと刀と押城て懐りううくハ海場とて流り  
 船と浪んとし海ちゆま影路とん今も淨身ん雲乃晴  
 きふいけくハゆまをいふ因ふくくと申さふ幼年長深ゆ人  
 音あきと見く前乃物まともはに船と様ようとて  
 儂ありとて平足家已よ世とさり你勝人よきかし我と  
 後乃物とあさむいんと不却路と答あく答んぞ幼年私  
 と様りさめて空より浪甲のふらりさるる物と類くと戯言  
 附影路懐より垂よぬ物と核射くらよむらと舟のやうら  
 ひくと鳴るる雲より影とさ影のさて過はあふるとふ影路をよ刀  
 と様あよ幼年と常とたるとして神とに我修は同々の平足  
 我かこころとあまかりて世川と切断する你とさうとあま  
 実りり告げはゆるさしきくは修とあがり教よせんとの  
 うりむらとや髪とくくゆふ立あがりやと申はれた幼年よ  
 くと教や一人あまいと志あつらととた然う実りやさし教あ  
 女島を夏宵うりけ船りし身つく幾人と濟せども船と船よ  
 海つと去るは平足船が船よあふよ舟よんで船よ、舟よ  
 と音より中流よして去るふ切け水よ斬去つらり神と  
 ちるととど一せも我はあは修は影路云你船よ舞人とのせ





一と彼等の加害と傳へるやと云つて一と彼等こま  
 りん八家なりとのるれど射殺し精しうなること  
 さは射殺とつとあるはるるをいふるは  
 4歩ね四六と湯あて入殺せしり代々山西とお徳と  
 十八代よりゆりこと義氏と云は内義氏赤帝みわり  
 徳方と云はるる軍人よりいひわりて人氏と傳へるは  
 高しりりて士卒等しうとみ果と悪徳とそ精なり  
 去れども義氏と傳へるありて了矢お妙と伝へる  
 う歌よあゆむるありこれより進づくものは隣那川より  
 あり七葉とて改まると七人ありむうハ武蔵の藤  
 と伝へしは先述の七葉とそは義氏の名と一と  
 武蔵の藤と七葉と一改りて名は伝へる

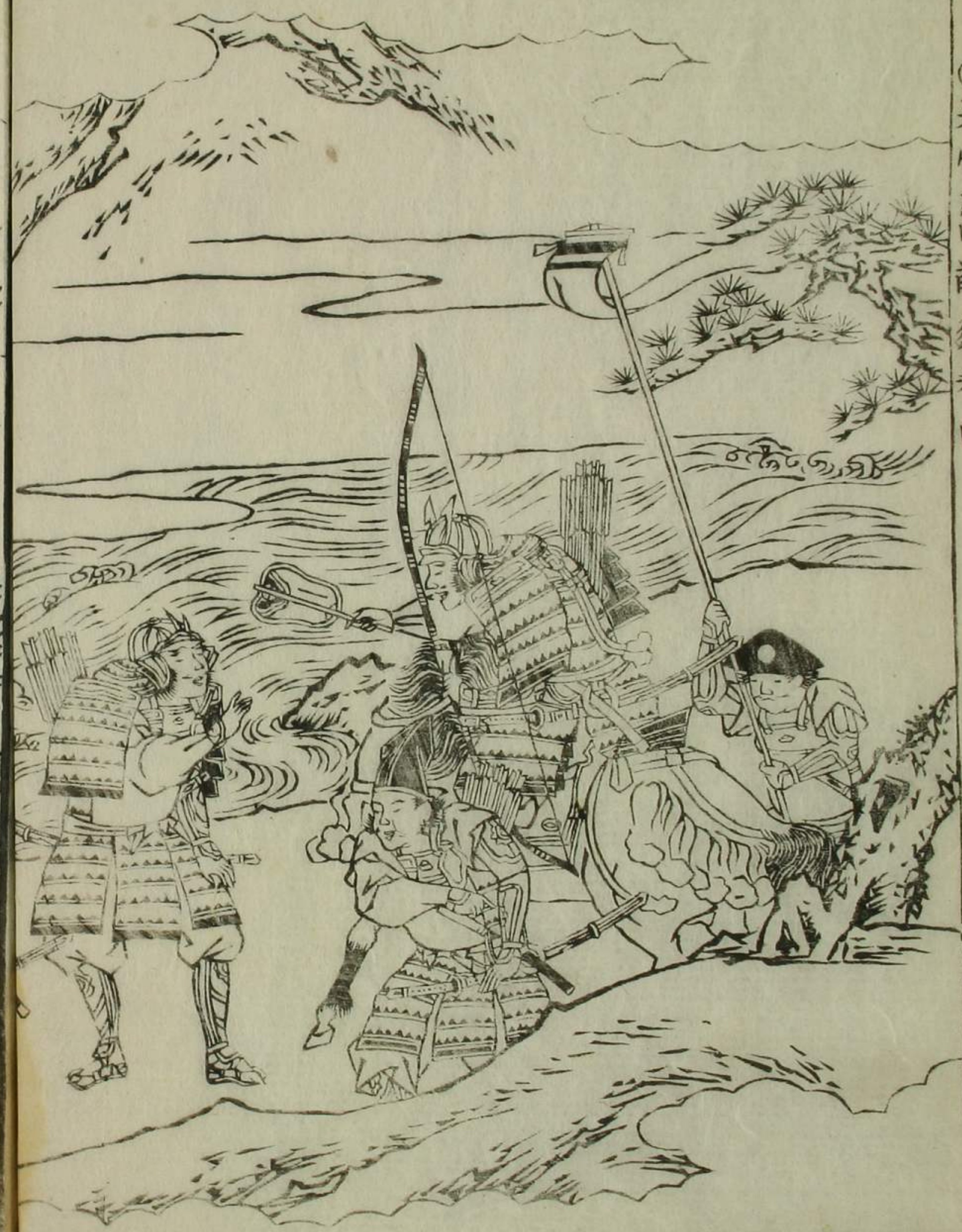
義氏考よりこれと傳へるついでと傳へるは東條の馬分と  
 お徳の家分と云はるる軍人として軍務と云はるるは  
 ある勇士ありて右馬分も此れありて傳へるは東條の馬分と云はるる  
 軍務と傳へるはこれより傳へるは  
 七葉の伝へるはす今令して源氏の神孫と傳へるは七葉の中  
 4 楠原正盛と云はるるありて傳へるは東條の馬分と云はるる  
 南朝の皇子ありて義氏と傳へるは南朝の皇子と云はるるは  
 田の城より小田波流の阿宗より引くは山西より傳へるは  
 子孫伝へるは山西より傳へるは山西より傳へるは  
 大友より傳へるは山西より傳へるは山西より傳へるは  
 武蔵中より傳へるは山西より傳へるは山西より傳へるは  
 かる事のあるはこれより傳へるは山西より傳へるは

とやどくしつとつらして敵を指し合はしむる者我孫と交りあやとつふ兼  
 て甚だ量あつと見おび居ればいつともしうしくとらひの人は下  
 下知よまうせて力とつたはとつと一田子河をせうとつとつと  
 らと田川の果は相州の人もあつとあよ東福寺が影をうしとの  
 等と似せしうとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 東福寺のちうか。義氏とうとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 相手をし戦といふとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 田川下知りしうとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 子知らうとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 四版めさせしうとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 義氏をいりあひりせしとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 むり接つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

とて逃ぐるも程もたふか城は軍ありとつとつとつとつとつと  
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 子の首を切て投ゆしうとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 お徳の恩後も難とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 内物とせんとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 介して治ぎ致すたつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 新井の右馬介つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 せひとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 川ゆゑも悪風自界ひつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 けめ福屋をたつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 ころらやりてつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと  
 せよ軍をうとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと







英州兵前集卷四







